

宇都宮での暮らしを提案するアンテナショップ「宮カフェ」

ポイント

宇都宮市の中心部、北関東を代表する商店街オリオン通りに情報発信拠点をオープン。
宇都宮市の農産物の産直販売や歴史・文化を紹介し、その良さ・すばらしさを市民に発信。

場所

栃木県宇都宮市

協議会

あり

分類

情報発信

実施主体

宇都宮商工会議所



概要

宇都宮市では、市と商工会議所が共同でアンテナショップを企画し、オリオン通り内の空き店舗に、宇都宮市の農産物販売所や地元食材を使ったレストランなどを併設した「宮カフェ」を設置しました。オープン後は、予想を上回る来客数があり、商店街の新たな集客スポットとなっています。また、隣接する「オリオン市民広場」でのイベントと連携することでエリア全体の活性化を図っています。

○事業内容・目的

宇都宮市は、「宇都宮らしさ」を市内外に発信し、市民には宇都宮に対する誇りや愛着を、市外の方には憧れをもってもらうことで、宇都宮が100年先も誇れるまちとなることを目指す「地域ブランド戦略プロジェクト」を実施しています。

その一環として市と商工会議所が共同でアンテナショップを企画し、「宇都宮ならではの暮らし方」を提案・発信する拠点として、平成21年11月7日オリオン通り内の空き店舗に「宮カフェ」を設置しました。



1階「@miya」産直品コーナー



特産品コーナー

○ 具体的な方法

「宮カフェ」は商工会議所が事業主体となり、国（「中小商業活力向上事業」）市からの補助により運営しています。1階「@miya」では産直野菜、農畜産物加工品、弁当・惣菜、菓子の販売を行うほか、宇都宮プロスポーツ応援グッズの展示・販売、歴史や文化の紹介コーナーがあります。

2階「プチブレイ」はカクテル、ジャズ、地産地消をテーマにしたレストランで、ランチはメインにビュッフェが付いて1,480円（税込）、ディナーは90分飲み放題＆前菜食べ放題を1,980円（税込）で提供しています。

今後は、ジャズミュージシャン渡辺貞夫を生んだジャズのまちらしく、定期的に音楽の演奏を行うことを検討しているほか、サテライトエリアではものづくり体験室や伝統工芸品等の展示、栃木県のスポーツチームや観光、イベントのPR発信の場としての利用も期待されています。



○ 取り組みの効果

オープン前、購買者数目標を平成23年度までに月6,500人とすることとしていましたが、平成22年3月までの平均で月9,900人に達しました。また、来店者数は1日の平均で平日は約620名、土日は約1,060名にのびります。カフェの認知度は高く、22年1月に行った街頭インタビューでも認知度が55%を超え、そのうち41%の人がすでに利用していると答えました。オリオン通りの新たな集客スポットになったことは、間違いありません。

○ 今後の課題

今後は、宮カフェへの来店者をいかに商店街全体への訪問者増と売上増につなげるかがカギとなります。また、隣接する「オリオン市民広場」でのイベントと連携することでエリア全体の活性化を目指します。

現在は商工会議所が事業主体となっていますが、今後ビジネスモデルとして事業成立性の確立の目途が立ち次第、NPOなどに事業運営を委託していく予定です。



空き店舗活用によるまちづくり拠点施設

！ ここがポイント

商店街の空き店舗を活用して、まちづくり活動の拠点施設「まちの情報館」を開設。市民、商業者等が開かれた活動の場。



まちの情報館外観

事業実施の背景

沼津市のTMOぬまづでは、空き店舗対策を先導的に推進する事業の一環として平成13年4月から、商店街（アーケード名店街）の空き店舗を活用してチャレンジショップを展開した。このチャレンジショップは、起業する意志のある商業者3～4社に低価格でレンタルし、その後繁盛店としてアーケード名店街の空き店舗に誘致することを目的としたものであったが、所期の目的を果たすまでには至らず、平成16年3月をもって閉鎖となった。しかし、歴史はあるが、市内で空き店舗率が最も高いアーケード名店街の活性化を目指し、チャレンジショップ跡地である空店舗に市民・商業者等のまちづくり活動の拠点施設として、平成16年5月に沼津地域産業振興協議会の運営による、ぬまづ産業振興プラザと連携した若人や店主の情報受発信サロンとして「まちの情報館」を開設した。

まちの情報館の機能

中心市街地におけるまちづくり活動のコーディネート場

専門スタッフを常駐させ、まちづくりなどの専門家集団との連携を図りながら、中心市街地における商業者、まちづくり団体の活動コーディネート機能。

中心市街地におけるまちづくり情報交流の場

中心市街地のまちづくりやイベントに関する情報を集積しながら、商業者、市民、若者などが気軽に立ち寄れる情報ステーションとしての機能。

中心市街地におけるまちづくりの担い手を育成する場

商業者のスキルアップとまちづくり活動の担い手を育成するセミナー、講座を開催し、商業・まちづくりの人材を育成する機能。

商業者・市民団体活動の場

商業者や市民団体が気軽に使える会議、実践活動の場となるスペースを提供する機能。

新しい商業経営者を育てる実験ショップ

新しい商業経営にチャレンジする場としての実験店舗を提供し、新たな商業経営者の育成を図る機能。

事業の効果

学生などの若者のまちづくりへの参画

「学生リーダー塾」の開催、「ぬまづタウンユース」(若者によるまちづくり活動グループ)への支援など、若者グループの活動をサポートすることで、まちづくりに関心を持つ若い人材の育成が図られている。

学生を商店街イベントなどの企画・運営にも参加させ、学生マンパワーを注入することで、イベントも活性化されている。

学生にイベントを経験させることで社会経験を積み、人材育成に繋がっている。

各種講座・セミナーの開催

「商業者のためのIT講座」、「市民向けIT講座」、「商業者のためのマーケティング塾」、日本政策投資銀行や経済産業省中心市街地活性化室などのまちづくり専門家による「まちづくりセミナー」等の開催により、商業者のスキルアップや意欲あるまちづくりの担い手の育成が図られている。まちづくり活動を行なう個人・団体の交流の場の創出

商店街、市民団体など、まちなかで活動する個人・団体に活動の場を提供することにより、様々な活動を行なっている個人や団体が相互交流する機会が生じている。

毎月1日に開催している「朝市」が定着し、盛況を呼ぶとともに市内外出店者間の交流の場ともなっている。

HP開設・運営による情報発信

HPにより、まちの情報館の活動はもとより、中心市街地の様々なイベント、催しを紹介するなど、中心市街地のにぎわい創出に向けた情報発信を行なっている。

事業の課題

収入の確保

「まちの情報館」の運営経費は、ほとんど市からの補助金によって賄われている。今後の事業継続のためには、法人化や収入の確保について検討していく必要がある。

今後の事業展開

「まちの情報館」がアーケード名店街に立地しているため、中心商店街の一部にはアーケード名店街のための施設と誤認識している商業者も見受けられる。今後は、中心商店街全体に波及する、あるいは取り込んでいく事業を展開し、さらに拡大していく必要がある。

市民の認知度

日経流通新聞(日経MJ)の一面や、地元マスコミなどにも取り上げられているが、市民の認知度は高いとは言えない。今後、市民の認知度を高めるための対策を検討する必要がある。

まちの情報館

所在地 : 沼津市町方町106
TEL : 055-964-0211
FAX : 055-964-0212
関連URL : <http://www.numazu-plaza.net/johokan/>



アーケード名店街で毎月1日開催されている「朝イチ」におけるまちの情報館前の風景



学生リーダー塾の様子

事業名称	LSC沼津みなみ「まちづくりカフェ」事業
団体名	(株)LSC沼津みなみ
実施場所	静岡県 沼津市

事業概要:

まちづくり活動の拠点となっている「まちの情報館」は、中心市街地の活性化のためのイベントなどアーケード名店街の活動拠点であり、地権者が日常的に集まりやすい位置にある。この場所を利用して、【まちづくりカフェ】を設置し、当地区のまちづくりに関する情報交換機能を視覚的に見せることにより、一層の合意形成を図る。

【まちづくりカフェ】

- ① まちの情報館の一画に「まちづくりカフェ」と名付けるコーナーを設け、パネルや模型を展示。
- ② 地権者は比較的高齢者が多く、事業実施に向けて様々な不安材料をもっていることから、定期的にまちづくり相談デーを開催し個別事情に対応したきめ細かな相談窓口をつくる。各相談は、他の地権者にとっても参考になる場合が想定されるので、共通の心配事や希望をカード形式に整理して、「ご意見板」を設置。

実施報告:

「まちの情報館」のショールームを使い3回にわたって再開発についてのパネル展示会を開催。

地権者の方々にパネル展示を見てもらうと共に個別の相談会を各1週間開催。

1. アメリカサンノゼのサンタナロウの写真展(7/15～8/15)

地権者代表がアメリカ視察に行った現地写真を展示

来訪者38名 相談件数5件 展示物を見ていた人延べ2,000人

2. 土地と建物の分離についてのパネル展示(9/20～10/30)

来訪者42名 相談件数3件 展示物を見ていた人延べ2,000人

3. Cafe M103の構想図展示(1/10～1/30)

来訪者46名 相談件数5件 展示物を見ていた人延べ2,000人



まちづくりカフェ 風景



Cafe M103

実施成果:

パネル展示により地権者だけでなく広く沼津市民にもこの街の取組みを知って頂いた。

地権者には、「まちの情報館」に入って、コーヒーやお茶を飲んで頂くことを通じて、定期的に開催している地権者の懇談会やセミナー等の案内が可能となり、参加者の増加に繋がった。

また、「まちづくりカフェ」というタイトルから多くの地権者が気軽に相談に来れる場所として定着し、合意形成の場としての改善にかかる意見が地権者から出たため、コミュニティカフェ「Cafe M103」を作る事に繋がった。

これら活動を通じて着実に再開発の機運醸成が図られており、今後の事業化に向けた合意形成に繋げることが出来た。